

# 新潟の水辺だより

Vol.61

●編集発行 特定非営利活動法人新潟水辺の会●発行日 2004年8月4日 Vol.61

## 水環境フェアが新潟に



やすらぎ堤へのアクセスも良好なNST新社屋

水環境フェアin新潟が新潟テルサや信濃川右岸下流やすらぎ堤・NST新社屋を会場として平成16年8月4日～8月8日の5日間開催されます。国土交通省を中心とした「水環境フェア2004in新潟 実行委員会」を主催としたこの大会の企画運営に新潟水辺の会が深く関わることとなり、この成功いかんは新潟の水辺の会の力量にかかっていると言えるかもしれません。ここでは全体の概要と私の関わることとなった展示について記します。

この大会は1.全国各地で展開されている地域の取組やその環境について全国の関係者が一同に集いその活動の報告や情報交換などを行う。2.開催地をはじめとする行政機関や市民等における、水環境の保全と改善に対する意識の高揚を図る。この2点を目的に開催されます。〈開催地・新潟の水環境〉の特性を生かして〈最近の水環境をめぐる動向〉に注目して「水都にいがた」を視野にいれつつ、「豊かで美しい水環境と連携した地域づくりと暮らしづくり」をテーマに大会が構成・展開されています。

全体のプログラム展開は大きく7つのイベントから構成されています。

1.『水環境作品展』：8/4～8：プレイベントとして新潟市及び新潟県で市民・県民を対象に公募した絵画や写真等の優秀作品をNST新社屋で展示します。併せて信濃川「川とふれあい写真コンテスト」入選

作品も展示します。2.「にいがた・水フェスティバル（展示）」：8/5～7：参加イベントとして新潟の水環境をパースペクティブにパネル展示し、NPO等市民レベルの水環境に関する活動内容を展示・紹介します。

3.「オープニングイベント（開会式）」「にいがた・水フェスティバル」：8/7：「水環境フェア」の開催を宣言するオープニングイベントや市民参加イベントを信濃川右岸八千代橋下流やすらぎ堤で実施します。

4.「水環境・テーマセッション（テーマ別分科会）」：8/7：メインイベントとして全国の市民団体、小中学生、首長による活動事例報告と意見交換を行います。

5.「水環境シンポジウム in 新潟（メインシンポジウム）」：8/7：メインイベントとしてこれからの水環境のあり方について考えます。

6.「交歓会」：8/7：交流イベントとしてテーマ別分科会、シンポジウム等への参加団体、出演者、主催・後援関係者などによる交流イベントをおこないます。

7.「水都にいがた見学会」：8/8：交流イベントとしてフェア参加者のなかから希望者を対象にした見学会を実施します。信濃川ウオーターシャトルを利用して、新潟市内の水辺、各施設を見学します。

このプログラム中NST新社屋での展示については、現在パネル製作が急ピッチで進行中です。ここでは新潟が信濃川・阿賀野川という全国屈指の二大河川が流れ、鳥屋野潟、佐潟、福島潟など低平地のなごりを残し水と深いかかわりにある地域であることを歴史をふりかえって表現し、現在の様子を知り未来を考えるきっかけになればと考えています。展示場所も八千代橋たもとのやすらぎ堤から連続したガラス張りの視界の開けた建築を利用しています。NST新社屋の見学も兼ねて、夏休みのひととき、家族連れでお出かけ下さい。お待ちしております。

上山 寛

### 6月6日（日）「身近な水環境の全国一斉調査」結果

近年、河川など身近な水環境の保全や修復に関する市民の意識が高まり、全国各地で市民や学校により身近な河川などの水質調査が行われています。



新潟市周辺の調査箇所85地点

全国初の試みとして2004年6月6日（日）、国分寺市のみずとみどり研究会が全国に呼び掛け、(財)河川環境管理財団と国土交通省が連携して、全国的に統一した調査マニュアルに基づき、全国の身近な水環境の水質を同一日に一斉に調査することになり、新潟水辺の会としても新潟地区の4団体（ねっとわーく福島潟、にいつエコサポーターズ、佐潟環境ネットワーク、新潟べとの会）と協力（総勢40名）、新潟市周辺の主だった河川と湖沼の85ヶ所の水環境調査を10グループに分けて水環境調査にあたりました。

今回全国ネットワークに参加したる団体総数は437団体（個人含む）、調査地点数約3000地点を越えた場所で水環境調査が行われ、秋には調査結果が発表されます。

全国的調査項目は気温、水温、COD（化学的酸素要求量）の三点ですが、新潟地区はその他、pH、硝酸態窒素、リン酸態リン、透視度、護岸の整備状況、河川の不法投棄の項目も入れて水環境調査を行いました。

85ヶ所の調査の結果、硝酸態窒素、リン酸態リンについては実施日が田植えの終えた灌漑期であったことや、近年農業に頼らない意識が高まったこともあり、各地で目だった高い数値は出ていませんでした。

しかし、CODで8以上の値が出た河川は予想通り、通船川・新栗ノ木川・鷺ノ木大通川・新井郷川及び、松浜の池・御手洗潟・神明神社池

などの湖沼でまだ汚れが激しいことが確認され、更にpHについては、丸山の池、御手洗潟、佐潟、鳥屋野潟など閉鎖環境の水域で数値が高く、水質の富栄養化が進んでいることが示されました。

透視度については、通船川の上流部の阿賀野川からの入口で1mを越えていた透明度が、市街地の工場地帯に入り下がり始め焼島潟付近で30cmと極端に低くなり、それと比例するようにCODが徐々に高くなってゆく当然の結果が出ましたが、見た目の河川の色と透視度は意外に違いがありました。

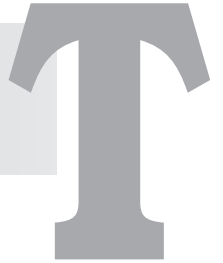
調査前10日程は、全国的にも好天が続き、比較的川岸にゴミの漂着や異臭などはありませんでした。河川の護岸については、鋼矢板による護岸整備は減ってきていますが、河川改修したどこの川も金太郎のように同じく見えて個性がなく、現代を象徴しているように思えるのは私だけでしょうか。土手を高くして川面が見えない、近づけない、これからは個性のある川にするとともに、川風を楽しむことの出来る護岸整備を望みたいと思いがらの一日でした。



早出川羽下大橋での調査の様子

この調査状況や結果は、第二回全国水環境調査実行委員会で報告するだけでなく、8月4日から開催の「全国水環境フェアin新潟」NST本社の展示スペースの映像コーナーでも放映しますのでご期待ください。

加藤 功



## 阿賀野川流域ネットワーク

5月29日(土)、新津駅前のホテル美好で、今年2月に続き2回目の阿賀野川流域ネットワーク交流会が開催されました。

今回の交流会には阿賀野川の流域で活動する22団体が参加し、各団体の活動紹介のあと、今年、「ネットワークとして何ができるか」について、かかわりたいテーマを決め、どのようなことができるかを話し合いました。

五泉トゲソのを守る会の中村さんの班では、川と遊ぶ事をテーマに今年8月8日(日)に行なわれる「清流スクール」をネットワークに手伝ってほしいという意見があり、実際に清流スクールで石焼ピザと川辺の写真展を行なうことが決定しました。

そのほかに各班で奥阿賀音楽彩に参加する、阿賀野川流域の宝物地図を作る、食を中心として流域を体験する、船とお酒を楽しむという意見があげられました。



石焼??ピザづくり実験中・・・暑い

これらの各班の意見をまとめた結果、11月6日(土)に阿賀野川の新潟県内最上流の豊実で行なわれる奥阿賀音楽彩にあわせ、阿賀野川流域シンポジウムとして、流域マップづくりや、橋の上での音楽彩などを行い、上流の福島県側との交流の場にできればと考えています。

阿賀野川流域ネットワークは、今回の交流会で8月の清流スクールと11月の音楽彩という具体的な目標ができたためか盛り上がりを見せています。今年7月11日にあった川の日ワークショップでも流域単位での市民団体のネットワーク化が目立ちました。阿賀野川流域でも、この2つのイベントをうまく成功させ、今後のネットワーク型の活動にうまくつながっていけばと思います。

寺村 淳

## 中ノ口川夢の水辺づくりワークショップ

6月13日(日)午前9時より中ノ口川左岸堤防から高野宮地までの区間約220mにわたり芝貼りや植栽を行いました。小さなお子様からご年配の方まで総勢80名程が5チームに分かれ、それぞれ用意された花苗を植えます。



みんなで選んだ花を植えました

この花苗は第1回のWSで植えてみたい花名を挙げ、試験的な意味も含めその中から比較的育ち安い種類を選定したものです。マツバギク・ヘデラ・シラン・ローズマリー・コモンヤロウ等。

私の参加した『しあわせチーム』の面々はコノヤロウにアノヤロウと呼んでいました。予定よりも早く植栽が終わったので集合場所の学童保育ハミングへ戻り、お天気も良いことから屋外でWSを開きました。その場で4箇所ある広場の呼び名が決められました。因みに私が気に入った名称は『三太郎広場』です。

終始和やかなムードのうちにWSも無事終了し、ふりかえりシートには次のような意見や感想が寄せられました。

・楽しかった(多数意見)・芝が密着するまで子守りする・私達の庭のように大事にします・花木での文字作りをしてみたい・川にちなんだお祭りを是非!

その他にもバードウォッチング、バーベキュー大会お花見大会を開いて欲しい等々自分たちの手でという自覚とともに期待や希望が満載という感じでした。

数多く出された意見や感想の中でも我が新潟水辺の会にも通じるなど思った事は

・共同作業をすることにより連帯感が生まれた  
・人が多く集まると大きな力が出るものだ  
会員の皆様できるだけ多くのイベントにご参加ください!

戸枝 邦子

## 萬代橋の橋側灯復元とライトアップ撤去について

萬代橋は7月6日の官報告示をもって正式に重要文化財となった。前号（Vol. 60）では、この重文指定に絡んで高欄の高さが問題であったことを述べた。今回は、街灯や橋側灯（側面の航路標）を昭和4年の建設当初の姿に完全復元することに絡んで、橋側灯を市民で寄付する募金活動と現在のライトアップの撤去問題について報告したい。



復元された街灯と現在のライトアップ（高橋正良撮影）

萬代橋の街灯や橋側灯、高欄のすかしの部分の鉄材は戦争のために昭和18年供出され、その後は比較的簡単なものが取り付けられてきた。

今回、重文指定を記念して、歩道改良工事と街灯及び橋側灯の復元工事が進んでいる。この工事はこの8月21日の2回目の萬代橋誕生祭（高橋正良実行委員長）までに完成させ、当日重文指定セレモニーや点灯式もやる予定になっている。

橋側灯は10基あるが、そのうち5基（総費用約2000万円）を寄贈することを目的に、「萬代橋復元プロジェクト実行委員会」が市民・産業界などの有志によって4月13日に発足し、私はその委員会の代表に選ばれた。その募金額は7月21日時点で1542万円に達しているが、後1か月で何とか残りの458万円を集めきりたいと考えている。

この募金を始めたとき、多くの人から「何ゆえ国がすでに予算を確保しているものに寄付するのか？」と疑問が寄せられた。それに対し「現在のライトアップにこめられた街づくりに対する市民の心意気を誇りに思い、それを継承していきたいからだ。」と回答してきた。

現在のライトアップは、1985年に初代萬代橋架橋百周年を記念し、1370万円の募金で実行さ

れたものであった。このライトアップは萬代橋を単に兩岸を繋ぐものから、見られる対象として位置づけ、それを見る場としての周辺地域の「街づくり」に強い影響を与えた。その結果、萬代橋周辺は、やすらぎ堤や朱鷺メッセ、歴史博物館など、国や県、市、民間とそれぞれが事業を進めたわりにはうまく展開し、新潟を代表する景観を形成してきたといえる。換言すれば、このライトアップは、萬代橋と信濃川が新潟の「街づくり」にとって大変重要な存在であり、それを行政だけに依存せずに市民自らが積極的に創り上げることの大切さを認識させてくれたもので、画期的なものであったといえる。

しかし、橋側灯が復元されると現在のライトアップと競合することになる。萬代橋復元プロジェクト実行委員会は市民組織で、現在のライトアップ照明器具に関して権限を有しているわけでないが、次の理由で現在の照明器具の撤去を提案している。

- 1・橋側灯にも元来「見事な橋の姿を照らして川面に浮き上がらせるように配慮していた」（「にいがた萬代橋—その100年」96頁より）というライトアップ機能もあり、これは意図的なライトアップでなく、本来持っている素材や形態の美しさを引き立てるライトアップであるといえる。
- 2・現在のライトアップの照明器具は、日中に見ると、橋脚から突起が出ており、萬代橋の本来の形態を害している。
- 3・現在のライトアップは夜見ると眩しすぎる場所があり、萬代橋の石張り表面の素材の良さを消している。
- 4・現在のライトアップの照明器具は18年経過し、かなり老朽化しており、いずれ撤去せざるを得ない。

このライトアップの照明器具は新潟市の所有になっており、国土交通省から占用許可を取って取り付けられている。

萬代橋プロジェクト実行委員会は新潟市長にこの撤去の提案をしている。萬代橋を愛する人々にこの趣旨を理解していただけたら幸いである。

大熊 孝（新潟水辺の会代表）



## 期待できる「'04萬代橋誕生祭」

今年8月21日土曜日午前10時から午後8時まで第二回目の萬代橋誕生祭を行う予定になっている。昨年までは「万代橋」と表記していた誕生祭実行委員会は、7月6日の重要文化財指定を受け「萬代橋」と表記することにした。

昭和4年三代目の架橋時は古町芸妓を初め多くの市民が渡初めを行い祝ったという。今年の誕生祭はそのときから数えて75周年でもあり、重文指定とともにめでたさもひとしおだ。祝賀のためのセレモニーと渡初めの再現パレード、さらに新潟市の東西を結びつきをしめすため沼垂の献額灯籠の参加が予定されている。もしかすると、もしかして一時的に全面通行止めになるかもしれない。

さらに、さらにその後には市民から2000万円の寄付を集めて設置した橋側灯の点灯式が行われる予定だ。昭和60年に市民の寄付で取り付けられたライトアップはそろそろ痛みが目立つようになり取替えの時期だ。今回の寄付で取り付ける橋側灯で前回の志をついでいきたい。

誕生祭はそもそも新潟のシンボル、東西を結び新潟を大都市に発展をさせた萬代橋を市民総出で祝う目的で始められた。街づくりを担う30以上の団体のほか、多くの福祉作業所が今年新しく参加する。



昨年は人力車が萬代橋を往来した

夏の終わりに川風に吹かれながらやすらぎ堤に設置されたステージの音に耳を傾けたり、オープンカフェでお好みの飲み物を買って橋の上の散歩を楽しんでほしい。ウォーターシャトルは当日低料金で周辺を回っている。

何はなくても「水の都・新潟」を満喫できる日にこれからも毎年続いてほしいイベントだ。

'04萬代橋誕生祭実行委員長  
高橋 正良

## 水辺のオープンカフェ

みなさんこんにちは

名は体を表すと申しますが、わたくし鈴木寿行と申します。人は、おめでたい奴が行くと良く言います。



やすらぎ堤でのオープンカフェ

しかし自称：わたくし「水辺のあきんど」の鈴木と申します。もともとは、JCの出身で、SWSの立ち上げのころ、水辺のサポート隊として発想したもので、船の後方支援で「水辺のにぎわいの創出」をと勝手に言って、船の乗場で、まちなかアウトドアといって気の合う仲間とビールを飲みながら、その実践をしていました。そして早数年、昨年、萬代橋誕生祭でようやく水辺のオープンカフェとしてかたちになりはじめた所です。

基本は、これだけ恵まれたロケーションでうまい酒を飲まないなんてもったいない！つかえる物は何でも使おう。お金をかけずにいかに楽しむか。時間をいかにエンジョイするかが大切で、駅ができれば駅前商店街ができるように、船の乗場ができれば人が集まる。人が集まれば市が立つ。市が立てばまちになる。夢は大きく舟運の復活と県外のお客様にウエルカムマインドを持って、まさに水際でいかに自分のまちの自慢をできるかがテーマです。まだまだ問題点は多数ありますが、年老いて死ぬ迄「しぶく」港でそれをやりつづけることをライフワークとしたいものです。

PS：8/21の今年の萬代橋誕生祭でもひとりで沢山必要とします。強制とか義務とかでは無く、たまにはゆっくり萬代橋を眺めながらビールでも飲みながら楽しく、まちの話をしませんか？お手すきの方はご協力をお願いします。

鈴木 寿行

### 阿賀野川源流のつどい

6月28日(土)、福島県南会津郡下郷町で「阿賀野川源流のつどい」に参加しました。

今回水辺の会からは相楽、寺村、私の3名の参加でした。この他新津市の「にいがた森林の仲間の会」の皆さんも十数人の参加でした。福島県内からの参加者と合わせて70人以上の規模となりました。



急斜面での仕事はこたえます

この催しは南会津林業活性化センターが森から海への水の循環を考える中で森の大切さを森づくり体験活動を通して感じてもらうと主催しているものです。

今回は昨年苗木を植えた場所の下草刈りが主な作業でした。

私は山仕事なんて初めてでした。こんな急な斜面で足場もどう確保しているのか分からないようなところでの作業はしんどいものです。また、昨年植えたスギの苗木よりも周りの草が高いため、スギを切ってしまうように気をつけて作業をしなければいけないのです。作業は1時間くらいで終わりましたが、運動不足もあり息が上がりました。

私自身下流で阿賀野川の水を飲んでいません。阿賀野川の満々と流れる水も山から来ているんだと思うと感慨深いものがありました。

その水を恵んでくれる森は大事にしていかなければいけないし、森を守ってくれている人々、水をきれいにしようとする上流の人たちの気遣いに感謝した一日でした。

来年はもっと大勢で行きたいですね。

杉山 泰彦

### 第7回川の日ワークショップ

今年第7回を数えた川の日ワークショップは、前回学生スタッフとして参加した第2回の時に比べ、参加人数(団体数等)もスタッフの数もずいぶんと多くなっており、5年の間に「いい川づくり」が広まっているのを感じました。発表した団体は、日本から68団体、韓国からも3団体と合計71団体で、今年は小中学生の参加が多く、小中学生の分科会が2テーブルできていました。多くの団体が発表しているなか、今年は、新潟からの発表がなかったのが少し残念でした。

新潟水辺の会からは、全体選考員に相楽世話人、分科会の選考員に石月世話人と星島世話人、学生スタッフとして寺村会員が参加し、ワークショップを盛り立てていました。

発表内容は「川」に関わることはいろいろと様々で、発表者も小学生から国土交通省の役人まで年齢も立場も違う人ですが、その発表からも自分達関わっている活動への思い入れが伝わってきました。また、全体を通して「住民と行政の協同体制というのが当たり前のことで、住民の力はすごい」ということを今回あらためて感じ、もっといろいろな人が参加して体感して欲しいと思いました。



今年は小中学生の発表が目立った

今年の結果は、1位2団体、2位5団体と、とてもレベルの高い大会になり、新しく「森清和賞」が選定されました。来年は、愛知の矢作川での開催ということです。

堀江 智恵子



## にいがた夢海岸フェスティバル 2004 開催される

7月24日(土)新潟西海岸(にいがた夢海岸、新潟市立栄小学校裏)で恒例のにいがた夢海岸フェスティバル2004が開催された。養浜事業や突堤の整備が行われている西海岸を市民に広く知ってもらおうと10年前から行われている。



新たな道具が活動を広げてくれる

潮干狩りや小型ヨット・カヌー体験、海の中を見よう、ブロックアートなど子供たちが楽しめる企画が沢山あり、水辺の会は実行委員として、NAMARAお笑いライブを中心としたステージ進行を担当した。ついでに私も歌わせてもらいました。

当日は天候にも恵まれ、約1万名の参加者があった。

今年は東京のNPO法人ユニバーサル社会学研究会が「ユニバーサルコースト現地実験」として、通栗ルネッサンスの協力のもと、年齢や障害の有無などにかかわらず、全ての人に公平かつ安全・快適に利用できるユニバーサルな海岸づくりを推進する目的で、弱者であり海岸とのふれあいが少ない身障者が海浜での様々な活動を行えるよう、ランディーズ(砂浜を自由に走行でき、水にも入れる空気タイヤ車椅子)やアクセスディンギー(誰でも操縦可能な小型ヨット)やカヌーの体験乗船を行い、その活動を通じて海岸への利用・活用・整備の可能性を探った。

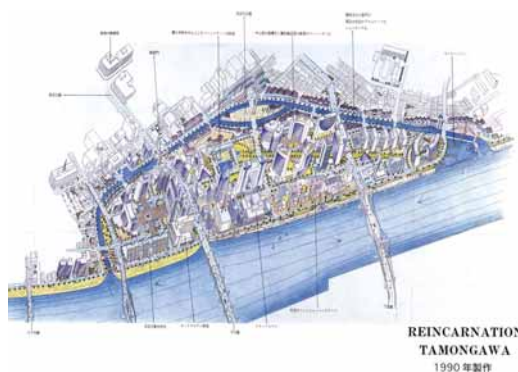
森本 利

## NPO市民事業への他門川の 再生研究が始まる

■タイトルが『(仮題)信濃川の派川他門川の再生による水都の再生とその市民事業化の研究』を、NPO全国水環境交流会のもと他地区(1.石狩川流域における連携推進システムと施策の社会実験、2.筑後川流域における流域エコツーリズムに関する社会実験)とともに、産・官・学・民の協力で2ヵ年実施する。大熊研究代表者、上山、石月主任研究員体制、相楽世話人事務局で進める予定。

■官民連携による自然共生型社会の構築に関する調査

■目的 自然共生型の社会・ライフスタイル形成のための社会実験をNPOを核として実施し、その結果をもとに、自然共生型国土・社会づくりのための連携について検討する。



1990年に上山氏提案。信濃川河口萬代橋左岸に位置する約1.3kmの旧河川復元

H16年度は1. 他門川再生研究会の結成、2. 「水都新潟」における 他門川の歴史的評価 3. 他門川の復元への先進類似事例調査 4. 他門川復元における都市再生課題の総括 9. 公開フォーラム開催 10. 川の再生と市民事業化の課題や目標の再整理 11. 公開する研究レポートの作成でH17年度は、5. 水上バスなど都市交通・都市産業の検討 6. 舟運など他門川の復元によるまちづくり評価検討 7. 他門川及び川の街再生(再開発)構想の検討 8. 市民事業での取り組みの可能性検討を行う。その後12他門川再生の市民事業投資や行政支援制度、事業投資支援の検討 13. 他門川再生事業体としてのNPO法人の設立などを目指した社会実験を行う。

相楽 治

### ■ 受講する人も、教える人にもポイント特典がつく 楽しい『かわ塾』



氏名 ..... ニックネーム  
TEL  
FAX  
E-mail  
住所 .....  
血液型 .....

問合せ先  
〒950-0024 新潟市東区2-2-6  
TEL: 025-270-2207  
http://www.8818@nietuokazari.jp/

セブンイレブンシール

かわ塾に参加しよう!

- ・新潟水辺の会が認定する活動に参加するとポイントがもらえます。
- ・30ポイントたまると認定証がもらえます。

#### ★ポイント数の例★

- カヌー漕ぎ 5ポイント
  - 板合わせ漕ぎ 6ポイント
  - ミニボジウム参加 2ポイント
  - 魚とり 5ポイント
  - 陣取り 8ポイント
  - 川遊び 3ポイント
- \*イベントによってポイント数が少し変わります。当日決定します。

#### 川の達人紹介

- 川のガイド 大熊 康
- 源流登山 和田 朝
- 川の生き物 石月 升
- 川の森遊び 嶋山 浩
- 川の水質 加藤 功
- 川遊び 杉山 泰彦
- 福島の川 熊倉 龍彦
- 川クリーン 戸塚 野子
- 漁・投網 風間 浩治

1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	★

「新潟 かわ塾カード」ポイントが貯まるとお楽しみ特典があるかも

全国各地の水辺では毎年、リバーズスクール、川の学校、水辺の学校、川塾、川講座などが開かれている。当会では、川と地域との関わりを創り出すために川舟「板合せ」を復元し、学校の総合学習や川祭りなどことあるごとに体験乗船プログラムを実施してきた。

通船川とつながる栗ノ川桜祭りでは200余名の子どもたちを乗せたが、飛び入りの日老人が「ワシにも漕がせろ」と漕船を任せると1回2回と連続で漕ぎ続けるといううれしい状況も生まれた。この体験や飛び入りの漕ぎ手のみでは場当たりで終わってしまう。

川との関わり方の進化を持続的に楽しむために環境教育の手法in→about→forを川に置き換え、体験コースから達人コース、かわ大学コースとステップアップすることのできる画期的な(?)『かわ塾』を考えた。「川を楽しむ、体験する」から「川を学ぶ、体得する」へ、そして「川を改善する」「川を守る」へ楽しく進化できる『かわ塾』だ。

幸いにも(財)新潟県環境衛生研究所、セブンイレブンみどりの基金、まちづくり財団などからも助成をいただき実行することとなった。

この『かわ塾』で次代の川の人材を養成するという押し付けがましい。当会のモットーである川遊び、川仕事を楽しくを続けていける選択ポイント制の『かわ塾』である。

受講する人も、教える人にもポイント特典がつく。対象者は、子ども、女性、青年、熟年者。

講師も一芸に秀でた川達人や川業師、技術者、研究者など。当然、川の自然に関する生き物の観察から、川舟「板合せ」やカヌー漕ぎ、投網の投げ、川泳ぎ、着衣泳、川の学習などだが、川辺の緑化、川掃除、花絵筏づくりなど従来の取り組みや他団体の取り組みなど個性的な連携型メニューも加えた

い。そこに参加しやすさ、発展する面白さなどの持続性を考え、昔の川遊び、川流れ、川の踊り、川料理の作り方、危険回避術、人工呼吸などからダンボールカヌーづくりなど講師によって多彩な川術を生み出したい。

ポイントもエコマネー並みに受講メニュー、講師の力量で決めてもいいと思う。たとえば川舟に乗る体験は1点、漕いだら2点、ある距離をこげたら5点、1人乗りカヌーを漕げたらなら3点、10人乗りカヌーは3点、下流カヌー漕ぎでは3点が急流はボーナス5点、投網は丘での3点に船上でのボーナス5点が加点など、いろいろ決めたい。そしていろいろな川体験で獲得したポイントによって、Tシャツやバッジ、バンダナなどがつく、好きな講師のセミナーや体験指導が受けられる。達人コース、川大学に進める。当然講師ポイントは10点など高く、講師も工夫次第でポイントが上がるようにしたい。本年は試行年としていろいろ試したい。8月8日早出川清流スクール+かわ塾が始まる。

相楽 治





## 第2回やろってば!!「水と緑」ワイワイガヤガヤ寄ったかり

第2回やろってば!!「水と緑」ワイワイガヤガヤ寄ったかり が開催されます。

日時：2004年8月29日（日）

午前10：00～午後4：00頃

会場：県土連ビル（新潟県土地改良事業団体連合会）講堂

（住所：新潟市長潟138）

参加費：無料

主催：にいがた水と緑ワークショップ実行委員会、新潟地域振興調整会議

にいがたの川や潟、水田などの水辺や、海岸や里山や街なかの緑を、そこに住む人々がみずから守り、育み、使い、管理していくことが盛んになってきています。そこで、第2回やろってば!!「水と緑」ワイワイガヤガヤ寄ったかりが開催されます。

第1回は20団体が参加し、特に新潟市立女池小学校のピオネッシーというピオトープ池づくりが楽しい発表で会場が盛り上がりしました。

あなたの水辺、あなたの緑について普段の活動を多くの人に知ってもらいたい人、知りたい人、ぜひ、この寄ったかりに参加してみてください。

大会では、お互いの活動を紹介しあい、「いい水辺・いい緑」とは何かを考え、知恵と勇気を分かち合いながら、ワイワイガヤガヤ寄ったかりながら、共通のイメージを育てていきたいと思っています。また、これまで行ってきた活動をほめることを目的としており、今後の活動の目標やステップアップのきっかけとしてとらえて頂けると幸いです。

発表団体や一般の参加をお待ちしています。

問い合わせ先：

〒951-8575 新潟市川岸町3-18-1

新潟県新潟地域振興事務所

地域振興課 藤塚、石月

TEL：025-231-8112

FAX：025-266-4971

E mail：t02104a5@mail.pref.niigata.jp

<http://www.prf.niigata.jp/c/hiikishinko/niiyata/>

森本 利

## イベント情報

8/4（水）～8/7（土）

水環境フェア2004in新潟

パネル展示（NST新社屋）

オープンカフェ（やすらぎ堤）

新潟テルサ

（水環境テーマセッション・シンポジウム）

8/8 早出川清流スクール・川塾  
（早出川太川橋付近）

8/21 萬代橋誕生祭（新潟市）

8/22 信濃川Eボート大会・川塾  
（新潟市）

8/29 水と緑のワイワイガヤガヤ寄ったかり（新潟市）

9/4 通船川クリーン作戦・川塾

9/11 つうくり市民会議

9/17-19 チョンゲチョン ソウル清溪川ツアー

9/月上旬 中ノ口川カヌー川下り

10/3 佐潟ハス採り大会  
・大熊河川研究室オープン

10/23-24 大池川講座・川塾  
（小出町）

11/6 阿賀野川流域シンポジウム  
（鹿瀬村豊実）

12/4 にいがた連携公開講座&水辺シンポジウム+望年会・川塾

お気軽にご参加ください。

### チチカカ湖で葦舟を漕ぐ

5月21日、成田空港からアメリカのダラス経由でペルーのリマ（時差14時間）に飛び、更にリマの空港から、かつてのインカ帝国の首都クスコ（世界遺産）（標高3,320m）に向かい、クスコからチチカカ湖畔のプーノ（標高3,850m）まで専用バスで移動した。



トトラの舟（バルサ）

チチカカ湖は、標高3,809m、面積8,140km<sup>2</sup>、（琵琶湖の約12倍）、最大水深370mでアンデス山脈からの雪解け水が流れこみ、水温は低いが魚類や水鳥が多く生息している。

風が少なく波もない朝のうち、ホテルの桟橋からモーターボートに乗り約20分でウロス島の浮島に接岸した。浮島は葦（トトラ）を厚さ3mくらい重ねて敷き詰めた簡単もので、十数人で住んでいる小さな浮島から、300人以上が生活している広く大きな浮島まであり、小学校や教会もある。畑で野菜をつくり、家畜を飼い、漁獲をして延々と何百年来浮島で自給自足の生活をしている。そんな浮島が27ヶ所以上あり、それらをまとめてウロス島と言う。

浮島からトトラの舟（バルサ）に乗る。バルサは、長さ2m～10m、幅0.7～1.2m、高さ0.3m～0.7mまで子供用から漁獲用、観光用まで用途に応じて各種造られ、約1年間は使用できる。観光用のバルサ（10～

15人）に乗った。ゆれが少なく乗り心地は柔らかくどっしりした感じで安定感がある。その代わり、水をだき、重く、水の抵抗が感じられ手漕ぎだからスピードは出ない。

「アンデス流」に、いそがず、ゆっくり、のんびりと進むのがいい。チチカカ湖の広い水面に出たので、身振り手振りでバルサを漕がせてくれと交渉した。（以下次号）

松野 直一

チョンゲチョン

### 清溪川ツアー締め切り間近

今、道路を潰し川の復元事業を行っている韓国ソウル市内「清溪川」（チョンゲチョン）を視察します。現地では担当技術者の説明を予定しています。

新潟からは27名が参加しますが、成田発、ソウルで合流するコースも設定しました。参加希望の方は今すぐお申し込み下さい。

申込締切り：8月中旬

期間：2004年9月17日(金)～19日(日)  
2泊3日

費用：一人9万円程度

主な日程：

9月17日(金)

成田空港9:30発、ソウル仁川空港11:55着  
「清溪川」復元事業視察

9月18日(土)

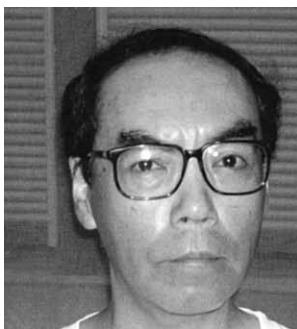
水辺視察及びソウル市内観光

9月19日(日)

自由行動、仁川空港18:40発、成田空港  
20:55着

問合せ先：森本090-1613-1879、  
toorum@rose.ocn.ne.jp

## 会員紹介



**岩屋 隆夫** 東京都土木技術研究所 千葉県野田市在住

国内外を取り巻く自然物の中で、最も人間臭いのが河川だと考えています。私自身とにかく忙しく、このため会のお手伝いはもとより、各種イベントにも参加できませんが、同種の川のグループの活動を真似ることなく、新潟ならではの活動を志向されることを期待しています。新潟の川には他地域には見られないような特徴があると考えます。



**藤原 信一郎** 千葉県自然保護連合 千葉県流山市在住

関心ごと：歴史的町並みや自然環境の保全運動

趣味：山歩き、町歩き、川歩き

嫌いなもの：クルマ、カラオケ、ケイタイ（止むなく持たされている）の3K

江戸川のはとりに住まい、田中知事支持派。三番瀬埋め立て絶対反対。

定年以降は自転車生活をめざす。

(写真は7月に尾瀬ヶ原を歩き、かえりの船中にて)



**丸山 弘** ひろし 新潟市はなみずき在住

新潟島のドンジリの下町の海、川、堀などに囲まれ、水辺だらけの中で育った者です。新潟みなどを軸に日本海、信濃川、早川堀が産湯です。

退職を機会に『水』とゆっくり、じっくり親しみたいと思い、水辺の会を知り入会しました。水の流れをじーっと見ていますと心が静かとなり、癒される思いがします。新潟の地勢はコンパスで○を書けば、半分が海水面です。県都に素晴らしい水辺の復活を切望する者の一人です。

## 書籍紹介 私たちの「いい川・いい川づくり」最前線 「いい川・いい川づくり」研究会 編著



市民の川づくりを全国で率い、全国「川の日」ワークショップを7年前に始め、今年1月11日川の字とも読める日に亡くなった森清和さん（よこはま川を考える会）の遺作となった。この本は、その実行委員を軸に研究会を組織し、グランプリ受賞河川の現場に足を運び「いい川」を論じ合ったメンバーの中で森清和、延藤安弘、新川達郎、桑子敏雄、嘉田由紀子、宮口としと、片寄俊秀、森誠一、島谷幸宏、山道省三の各氏と相楽が執筆した編著である。相楽はその中で、「川を育むパートナーシップ」の項で『地域のみんなで共有し、使い楽しみつづける川づくり』というタイトルで通船川を取り上げ「川庭・川畑」の存在意義を論じた。水辺の会会員に限り相楽から著者割でお渡しできます。

A5L判・240頁・定価2625円（本体2500円）2004.7.10発行

ISBN N4-7615-2342-5 学芸出版社 <http://www.gakugei-pub.jp/>

## 7・13水害 災害ボランティアin三条

『7月19日午前10時現在のボランティアの参加人数617名』こんな内容の書いてある四角い紙を壁に貼り付ける。…これが三条



家に溜まった泥と使えなくなった家財

災害ボランティアセンター内での私の初仕事だった。必要人数のべ4,000名、これまでの累計のべ1,400名程であるという。

センター内は善意の老若男女でごった返し、手助けを求める電話は鳴りっぱなし状態だ。

圧倒され暫しその場に立ち尽していると、三条市内で被災者に無料開放している銭湯があるという。ラジオ局に電話して調べるよう指示がきた。宮島の湯・泉の湯・高砂の湯との情報を得、その心意気に感動しながら詳しい住所と配地図を調べ、これも壁に貼り出す。

### 事務局より

この度の水害で亡くなられた方々の御冥福をお祈りしますとともに、被災された方々へ心よりお見舞い申し上げます。復旧支援ボランティアへこれからいかれる方は現地ボランティアセンター等に交通アクセスや受け入れ体制をご確認のうえ、現地に向われます様をお願いします。

### 入会申込書

フリガナ 氏名	男・女 歳
特技や 水辺への想い	メールアドレス
住所	〒 ( ) -
職業	
勤務先	〒 ( ) -

注) 紙面の都合上、縮小しています。  
250%程度拡大コピーをしてご使用下さい。

これでもか、これでもかという位解決しなければいけない問題を持って来られるので、指示を出す方も混乱している様子。

限られた時間を有効利用するため、午後から八木会員と共に別行動していた松野・加藤・野口会員の元へ合流する。

行き先は一人暮らしの老婦人宅。異臭が鼻をつく、家の周囲にうず高く積まれた“ゴミ”。

年を重ねるごとに愛着を増していった品も多かったろうにと思い気が沈む。

旧競馬場跡の敷地はそのまま行けば第2のスキー・マウンテンか、はたまた夢の島か? 予想以上の量と聞く。

この屋の主は高齢者階下に泥水がなだれ込む様子を為す術も無く恐怖に震えながら、只々見つめていたに違いない。道すがら目に飛び込んできた悲惨な状況に心が痛む。

作業終了の挨拶の時、何度も何度もお礼の言葉を口にしたあの老婦人の不安げな表情が目に残りついて離れない。

戸枝 邦子

## 入会案内

この会は、遊び心半分・真面目心半分で活動しています。ウォッチングには、家族ぐるみで子供達も一緒に参加したりしています。

自分の足で水辺を歩くなりして、自分でも感じたことから、自分の水辺を発見していく、あるいは考えていくことを大切にしています。

今までとは違った視点から、あらためて自分の身の回りに目を向けて見ると、同じものを見ているのに今までとは違うものに見えてきます。新しい発見があります。自分の世界もまた少し広がってきます。

この会も色々な分野の人達が集まって、それぞれの世界がもっと広がっていくような出会いの場を提供できる会にしたいと考えています。あなたの参加お待ちしております。

■設立年: 1987年10月1日 ■目的: 水辺に関わる自然、歴史、文化、生活、風俗、スポーツ、レクリエーション並びに科学技術を探り、これからの水辺の望ましい姿を考え、地域の生活向上に寄与することを目的とする。 ■代表者: 代表 大熊孝(新潟大学工学部教授) ■会員数: 個人205名・法人12団体(2004年5月現在) ■活動: 水辺シンポジウムの開催/水辺ウォッチング/会報「新潟の水辺だより」の発行/「水辺環境整備に関する学習会/長野県富山県の水辺グループとの交流会/通船川、佐潟の調査・研究etc.

■年会費: 個人会員一口1,000円を2口以上、賛助会員(法人など)一口5,000円を2口以上

●発行: 特定非営利活動法人 新潟水辺の会

●事務局: 〒950-0024 新潟市河渡2-2-8

Phone 025-270-9207

Fax 025-270-9207

e-mail: info@niigata-mizubenokai.or.jp

ホームページ

<http://www.niigata-mizubenokai.or.jp/>